

第2学年1組道徳指導案

1 主題名 自分とちがっても〈C- (11) 公正、公平、社会正義〉

2 教材名 およげないりすさん（光村図書 道徳2）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

一人一人が、誰に対しても分け隔てなく公正、公平に接することが、いじめや差別のない、みんなが安心して生活できる社会の実現につながる。小学校低学年においては、発達の特質から自己中心的な考え方をしがちで、自分の好みや利害によって公平さを欠く言動をとる姿が見られることがある。差別や偏見をもつことなく集団や社会との関わりをもてるようにするために、低学年の段階から、相手の気持ちや立場、みんなと仲よくすることの大切さについて考え、好き嫌いにとらわれず、誰に対しても公平、公正に接することのよさを実感できるようにすることが大切である。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、明るく活発な児童が多く、休み時間には友達と誘い合って仲よく遊ぶ姿が見られる。また、困っている友達を助けたり、係や当番でなくても仕事を手伝ったりと、互いに助け合うことができるようになってきている。反面、ささいなことで感情的になり、自己中心的な言動をとったり、友達の気持ちを考えられず、不用意な発言で相手を傷つけたりしてしまう児童もいる。

自分の好き嫌いで行動してしまったときの相手の心の痛みや分け隔てをされた人の痛みについて考え、誰に対しても公平、公正に接しようとする心情を育てるとともに、自分とは異なる考え方や感じ方、自分とは異なる個性をもつ他者を排除するのではなく、共に協働していく仲間と認め、大切にしていける心を養いたい。

(3) 教材について

本教材は、「泳げる」あひる、かめ、白鳥が、「泳げない」という理由で、りすを仲間外れにしてしまうが、自分たちの言動の不公正さに気が付き、どうすればみんなで仲よく遊べるかを考える話である。友達と仲よくすることの大切さが分かっているが、自己中心的な考え方や行動によりトラブルを起こしがちな本学級の児童にとっては、課題を自分の経験に置き換えて考えられる内容である。そこで、グループで役割演技を行うことを中心に展開することにした。遊びに入らなかった後悔や入れてもらえなかった悔しさ、友達と仲よくすることの心地よさを、役割演技を通して感じ取らせたい。中心発問では、「自分だったらどんなふうに声を掛けて誘うか」を考えさせる。互いに誘ったり誘われたりする活動を通して、優しく声をかける側もかけられる側もどちらもうれしい気持ちになることを感じ取らせたい。また、それらの活動で高めた価値を、自分たちの日常につなげ実践意欲につなげたい。

4 ねらい

- みんなと仲よくすることの心地よさを感じ取り、違いを大切に誰にでも公平に接しようとする実践意欲と態度を育てる。

5 準備 (教) 人物絵 ワークシート フラッシュカード

6 指導過程

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
5 (3)	1 自分の経験を振り返る。 △ 友達からされて嫌だなと思うことはどんなことですか。 ・ 遊びに入れてもらえないこと。 ・ 悪口を言われること。	○ これまでの経験を振り返らせるが、個人名を出さないように発言させる。 ○ 児童の発言を受け、嫌なことをされたときの気持ちも考えさせる。 ○ 誰もが嫌な気持ちにならずに仲よくするためにはどうすれば	○ 自分を振り返って発言することができたか。 (発表・観察)

	<p>みんなとなかよくするためには？</p>	<p>よいかと問い、本時のテーマにつなげる。</p>	<p>○ 本時のテーマをつかむことができたか。（観察）</p>
25 (30)	<p>2 教材を読んで話し合う。</p> <p>(1) 教材を読み、あらすじや登場人物の置かれている状況を確認する。</p> <p>(2) 登場人物の気持ちについて、役割演技をして考える。</p> <p>△ 島で遊んでいても、ちっとも楽しくない3匹は、どんな話をしたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ りすさんのことが気になって楽しくないよ。 ・ りすさんは嫌な気持ちかもしれないね。 ・ 泳げないからって仲間外れはよくなかったな。 <p>▲ 自分なら、次のりすさんをどんなふうに誘いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨日はごめんね。今日は一緒に遊ぼうね。 ・ りすさんの気持ちを考えなくてごめんね。 ・ 昨日りすさんがいなくてさびしかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の内容が捉えやすいよう、場面絵や人物絵を提示しながら範読する。 ○ りすが泳げないことを理由に仲間に入れなかった状況を確認してから役割演技をさせる。 ○ 役割演技を通して場面の様子や登場人物の心情について考えさせる。 ○ 導入で想起した、自分が嫌なことをされたときの気持ちと比較させ、自分の事としても考えさせるようにする。 ○ 役割演技を見ている児童にも、どう思うか発言させる。 ○ 教材の中では、どのように仲直りしたのか確認した上で、自分ならどう言葉をかけるか考えさせ、ワークシートの吹き出しに記入させる。 ○ グループで、それぞれ役を決め、自分で考えた誘い方を言わせる。 ○ 友達の優しい言葉かけや仲よくすることの心地よさを感じ取らせる。 	<p>○ 教材の内容をつかむことができたか。（観察）</p> <p>○ 役割演技を通して、仲間外れにされる側もする側も嫌な気持ちになったことを、自分のこととして考えることができたか。（発言、役割演技）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○ みんなと仲よくすることの心地よさを感じ取り、違いを大切に誰にでも公平に接しようとする実践意欲がもてたか。（ワークシート、発言、役割演技）</p> </div>
10 (40)	<p>3 みんなと仲よくするためにできることを考える。</p> <p>△ みんなと仲よくするために自分ができるとはなんでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで一緒に遊べることを考える。 ・ 1人でいる子がいたら誘う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身の日常生活を振り返らせ、実際の生活の中でどんなことに気を付けるとよいか考えさせる。 ○ みんなで楽しく過ごせた経験について想起させたり、児童の考えを認める言葉掛けをしたりして、実践意欲につなげる。 	<p>○ みんなと仲よくするために何ができるかを考えることができたか。（発言・観察）</p>
5 (45)	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>○ 本時の授業を通して、考えたことをワークシートにまとめる。</p>	<p>○ ワークシートに本時の学習で考えたことや学んだことを記入させる。</p>	